

プレマリン錠0.625mg

【この薬は？】

販売名	プレマリン錠0.625mg PREMARIN TABLETS 0.625mg
一般名	結合型エストロゲン Conjugated Estrogens
含有量 (1錠中)	0.625mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、結合型エストロゲン製剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、卵胞ホルモンを補充することにより卵胞ホルモンが不足する時に起こる症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

卵巣欠落症状、卵巣機能不全症、更年期障害、膣炎（老人、小児および非特異性）、機能性子宮出血

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・エストロゲン依存性腫瘍（例えば、乳がん、子宮内膜がん）のある人およびそ

の疑いのある人

- ・過去に乳がんがあった人
- ・血栓性静脈炎の人、肺塞栓症の人、または過去にこれらの病気があった人
- ・動脈性の血栓塞栓疾患（例えば、冠動脈性心疾患、脳卒中）のある人、または過去にこれらの病気があった人
- ・過去にプレマリン錠に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人
- ・肝臓に重篤な障害のある人
- ・診断の確定していない異常性器出血のある人
- ・未治療の子宮内膜増殖症のある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・子宮内膜症のある人
- ・子宮筋腫のある人
- ・心臓の病気のある人または過去に心臓の病気があった人
- ・てんかんのある人
- ・糖尿病の人
- ・4週間以内に手術の予定がある人
- ・長期間寝たきりの人
- ・血縁に乳がんになった人がいる人
- ・乳房にしこりのある人、乳腺症のある人、乳房のレントゲン像に異常がみられた人
- ・全身性エリテマトーデスの人
- ・片頭痛のある人
- ・思春期前の人
- ・腎臓に病気のある人または過去に腎臓の病気があった人
- ・肝臓に障害のある人
- ・授乳中の人

○この薬の使用前に、あなたや血縁の方の治療中の病気や過去にかかった病気の有無などの問診、乳房や婦人科の検査（子宮のある人では子宮内膜細胞診および超音波検査による子宮内膜厚の測定を含む）が行われます。

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔卵巣欠落症状、卵巣機能不全症、更年期障害の目的で使用する場合〕

飲む回数	1日1回	1日2回
一回量	1錠または2錠	1錠

〔膣炎（老人、小児および非特異性）、機能性子宮出血の目的で使用する場合〕

飲む回数	1日1回	1日2回	1日3回
------	------	------	------

一回量	1～6錠	1～3錠	1～2錠
-----	------	------	------

●**どのように飲むか？**

コップ1杯の水またはぬるま湯と一緒に飲んでください。

●**飲み忘れた場合の対応**

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●**多く使用した時（過量使用時）の対応**

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・外国において、結合型エストロゲン（この薬の属するグループ）と黄体ホルモン剤を併用した場合、その期間が長くなるにしたがって乳がんになる危険性が高くなるとの報告があります。したがって、この薬を服用する場合においては、その併用の必要性および注意すべき点について医師から十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・定期的に乳房や婦人科の検診（子宮のある人では子宮内膜細胞診および超音波検査による子宮内膜厚の測定を含む）が行われます。
- ・血栓症の初期症状（足の痛み・むくみ、突然の息苦しさ・息切れ、胸の痛み、めまい、意識の低下、意識の消失、手足が動かない、文字や形がみえにくい、視野の異常など）や血栓症の危険性が高くなる状態（体を動かせない状態、あきらかな血圧上昇など）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じ時期にあらわれたら使用を中止し、ただちに医師などに連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

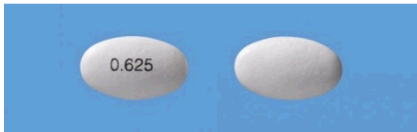
特にご注意ください重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
血栓症 けっせんしょう	ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のしびれ、鋭い胸の痛み、突然の息切れ、押しつぶされるような胸の痛み、激しい頭痛、脱力、まひ、めまい、失神、目のかすみ、舌のもつれ、しゃべりにくい
血栓塞栓症 けっせんそくせんしょう （四肢、肺、心、脳、網膜等） （しし、はい、しん、のう、もうまくなど）	吐き気、嘔吐、脱力、まひ、激しい頭痛、胸の痛み、押しつぶされるような胸の痛み、突然の息切れ、激しい腹痛、お腹が張る、足の激しい痛み

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	脱力、まひ
頭部	激しい頭痛、めまい、失神
眼	目のかすみ
口や喉	舌のもつれ、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐
胸部	鋭い胸の痛み、突然の息切れ、押しつぶされるような胸の痛み、胸の痛み
腹部	激しい腹痛、お腹が張る
手・足	ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のしびれ、足の激しい痛み

【この薬の形は？】

販売名	プレマリン錠0.625mg
PTP シート	 表面 裏面
形状	だ円形の糖衣錠 
直径	長辺 11.5 mm、短辺 6.7 mm
厚さ	4.0 mm
重さ	216 mg
色	白色
識別コード	0.625

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	結合型エストロゲン
添加剤	乳糖水和物、第三リン酸カルシウム、結晶セルロース、粉末セルロース、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム、白糖、ヒドロキシプロピルセルロース、マクロゴール400、酸化チタン、ポリソルベート80、カルナウバロウ

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

製品情報センター（患者さん・一般の方）

電話　　： 0 1 2 0－9 6 5－4 8 5

F A X　　： 0 3－3 3 7 9－3 0 5 3

受付時間：月～金 9 時～1 7 時 3 0 分

（土日祝祭日および弊社休業日を除く）